

## 甲賀地域のナシ産地の拡大に向けた技術支援

対象者 甲賀地域なし栽培研究会

### 【普及活動のねらい】

当センターは、平成 27 年度から関係機関が連携してナシの栽培者を募り、新たな産地づくりを進めてきました。近年では、ナシを基幹作物とする新規就農者が出てくるなど、新たな動きがみられます。こうした中、栽培面では枝の更新が行われていないため、果実を着ける側枝の確保が難しくなっていることや、地域全体の生産量が少なく品質をあまり気にせずとも売り切ることができることから、生産者間で果実の大きさや糖度などの品質に差が出てきていることが課題となっています。そこで、今年度は、側枝を確保するための栽培技術の実証と、果実品質の均一化に向けた栽培支援を行いました。

### 【普及活動の内容】

#### 側枝を確保するための栽培技術の実証

側枝として活用できる新梢を育成するために、モデル農家園で 3 技術(「芽傷処理」、「主枝への腹接ぎ」、「短果枝への GA 塗布」)を実証しました。また、研修会での説明やモデル農家園での新梢の伸長状況の確認を通して、技術共有を行いました。

#### 果実品質の均一化に向けた栽培支援

研修会で目標着果数や果実重を提示し、品質を高めるための栽培技術を提案しました。また、糖度測定会を開催し、会員それぞれが果実を持ち寄り、果実重や糖度の測定、試食を行いました。外観、食味から品種特性や収穫適期を確認し、目標とする果実品質を会員間で共有しました。

### 【普及活動の成果】

栽培技術の実証では、3 技術のうち「芽傷処理」と「短果枝への GA 塗布」の効果が高く、特に側枝の確保が難しい早生と中生の品種で側枝として活用できる新梢が確保できました。果実品質の均一化に向けた栽培支援では、夏季に降水量が少なかった影響から、昨年度と比較すると小玉傾向となったものの、果実重、糖度とも、おおむね目標とする果実品質を維持することができました。

今後は、上記の課題解決に向けた実証、支援を引き続き行っていくとともに、生産量の拡大に対応するための販売方法の検討や、産地拡大に向けた更なる新規栽培者の確保等の取組を行います。



モデル農家園での新梢の伸長状況の確認



糖度測定会の様子

#### ◎対象者の意見

側枝が確保できないと果実が取れないため、減収する不安がある。これらの技術を実施することで安定的に収穫できるようにしたい。(甲賀地域なし栽培研究会員 N 氏)